

# 平成 30 年度中学校武道授業(合気道)指導法研究事業



大妻中学校の合気道授業を視察

平成 30 年度中学校武道授業(合気道)指導法研究事業〔主催＝日本武道館・合気会・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁、協力＝大妻中学高等学校〕は、平成 31 年 2 月 9～10 日の 2 日間、日本武道館大会議室(東京都千代田区)において実施された。

本事業では、昨年に引き続き、大妻中学高等学校(千代田区)での合気道授業視察による指導法研究に加えて、『改訂版・中学校武道授業(合気道)指導の手引書』の作成に向けた指導内容の検討を行った。



開講式では、はじめに栗林孝典合気会渉外部長が「平成 24 年度から中学校武道必修化が始まりましたが、合気道授業の実態として、全国の中学校で 47 校が合気道を採用しています。広く合気道を採用してもらうため、引き続き努力してまいりたいと思います」と挨拶を行った。次に、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が「新学習指導要領に武道 9 種目が並列明記が決定しています。また来年度はスポーツ庁の武道等指導充実・資質向上支援事業として、全国 9 ブロックから各 3 校(計 27 校)を『武道推進モデル校』として選出し、外部指導者の活用や複数種目の実践研究を実施することも決まりました。それに伴って、2 月下旬には、都道府県・政令指定都市教育委員会学校体育担当者会で、武道団体の協力方策として、合気道を含めた 9 武道団体の種目の特性、取り組みなどを伝えます。合気道採用校もさらに増えることでしょう。先生方には更なる指導内容の検討をお願いいたします」と述べた。

開講式終了後、小雪舞う中、大妻中学校へ移動し、合気道授業の視察を行った。

女子校である大妻中学高等学校では、平成 24 年度より、中学 1 年生の授業でクラスごとに合気道を実施している。24 年度は、今回の研究者でもある平野真央教諭が指導案を計画して実施した。その内容は、およそ 7 時間程度で、基本技を指導して、最後は演武会を行うものであった。それ以降は、代わる代わる 1 年生の保健体育担当者が、平野氏の指導法を基に、各自工夫を重ねて授業を実施している。なお、合気道経験者は平野教諭のみで、他の教員は各自で指導者研修会などを受講し、授業に臨んでいるとのことであった。本年度担当の岡部奈弓教諭は合気道が専門ではなく、3 年前に初めて合気道授業を実施し、今年で 2 回目の合気道授業であった。1 学年は 7 クラスあり、生徒は 300 名弱。うち、合気道経験者は 2 名と、ほぼ全員が初心者であった。

体育館には 100 畳程度の広さのマットが、畳の代わりに設置されていた。畳より軽く、女子生徒でも持ち運びが容易で、生徒数名でマットの下に空気を入れてマット全体を移動させ、位置を微調整していた。生徒は体操着に、大妻中学校の伝統的な体育のスタイルである赤いハチマキをして授業に臨んでいた。

当日は、全 7 時間中 4 時間目の授業にあたり、生徒約 40 人に対して、<sup>すみおと</sup>角落しと呼吸法が指導されていた。準備体操後に礼を行い、指導が始まった。

はじめは全員で受けの練習。座った姿勢からの後ろ受身。次に立って右半身からの後ろ受身と段階的な指導がテンポよく進んでいく。続いて、受

けと取りのペアになって角落しの練習に入った。  
「取りは手を開いて『物を拾う』ように一步踏み出して」と岡部教諭。生徒はそれぞれで反復練習。岡部教諭は生徒を集め、一組を使って、逆半身片手取り角落しを説明した。再びペアとなり「相談しながら行ってください」と指示を出す。素早く最小限で角落しを理解させる。ここまですら開始からわずか15分。授業での運動量、生徒の集中力などを意識している姿勢が窺える。反復中にもすかさず「受けは自分の体勢が崩れたと思ったら受身を取ってください」と注意点が加えられた。

座技の呼吸法では、全員で礼をした状態でゴロンと左右に転がる。次に足をクロスさせて全員で転がった。呼吸法の受けの動きを全員で行っている。続けて取りの指導。「取りは小さく『前へならえ!』。そのまま指先を上げて相手に手の平を見せる。『手相を見せて』のような動きです」。岡部教諭は、合気道の独自の動きを生徒たちが日常的に使っている言葉に換えて説明している。平野研究者は「『手相を見せて』は岡部教諭のアレンジです。担当でない教諭は自分ならどうやろうかというのを常に考えて授業を見学しています」と大妻中学校の指導方法を解説。この日も男子教諭2名と一緒に授業を見学していた。

再び生徒を集めて、岡部教諭は自身と生徒が向かい合って呼吸法を説明した。ペアで呼吸法の練習に入った。受けと取りを交互に行っていく生徒たち。「受けは起き上がろうとしてごらん、起き上がれないよ」と岡部教諭。相手が起き上がれないことに驚き、生徒からはこの日一番のどよめきがあがり、授業は終了した。「生徒は、日常生活にない合気道の動きに興味を示していますね」と岡部教諭は感想を語った。

視察終了後、日本武道館大会議室に移動し、研究者による授業視察の感想発表・意見交換を行った。

#### ▽金澤威研究者

「大妻中学校の授業は、担当の先生が男性から女性になったこともあると思いますが、去年に比べてだいぶ整理されてスムーズに行われています。生徒の反応も良いし、先生の導きも良かったです」

#### ▽日野皓正研究者

「1時間目に礼法を徹底したとのことで、去年に比べて礼法に割く時間が減り、技術的な指導に時間を割いていて、より展開を深めていました」



#### ▽佐藤貴研究者

「私の高校でもちょうど角落しの授業をやっています。どうしても棒立ちになってしまう生徒がいます。取りが『物を拾いに行く』という表現は良いですね」

#### ▽鈴木俊雄研究者

「非常に理解しやすい形で伝える表現を考えているので勉強になりました」

#### ▽梅津翔研究者

「賑やかになった場面でも、教員がコントロールしてしっかりとやり遂げていました」

#### ▽飯原宏亨合気会事務局

「生徒たちが楽しんで授業を受けている印象を受けました」

#### ▽栗林孝典合気会渉外部長

「我々ではできたものを見せて、指導しますが、大妻中学校の授業は、受けと取りをそれぞれ一斉に指導して、後で合わせるという積み上げていくような授業でした。新鮮でした」

#### ▽平野真央研究者

「大妻中学校では、受けと取りを別々に練習しています。岡部先生がその時言っていたのが『今は分からないけど向かい合ったら分かると思う』です。はじめて組み合せて、生徒は『こういうことか!』という発見が得られているのだと思います」

#### ▽立木幸敏研究者

「この授業実践をビデオに撮って指導者研修会で見せると参加者はイメージを持ちやすいでしょう。経験者からするとすごく新鮮な指導方法でした」



初日午後から翌日にかけては、『改訂版・中学校武道授業(合気道)指導の手引書』作成に向けた指導法研究が重ねられた。また、武道等指導充実・資質向上支援事業(支援体制の強化)を合気会として実施するため、その企画案が検討され、充実のうちに研究事業は終了した。